

令和5年度の学校評価自己評価結果

重点目標	①児童生徒及び教職員の人権が守られるよう、教職員が一致団結して環境を整える。 ②児童生徒が安心して学習できる場となるように環境整備を進める。 ③キャリア教育の視点での授業改善に取り組み、一貫性のあるかつ多様な学びの場を目指す。 ④交流校や関係諸機関との連携を進め、卒業後も見据えた連携体制を整える。 ⑤学校内外の研修の機会をとおして肢体不自由教育における専門性の向上に努める。 ⑥業務内容を精選し、教職員の多忙化を改善して教育活動を充実させる。	
	具体的方策	取組結果(自己評価)、次年度の課題
①	<ul style="list-style-type: none"> 人権に対する知識や理解を深める。 人権週間の取組を継続して実施する。 	職員間の取組として、事例を挙げたグループワークを行った。事例に対しての対応方法や日常の対応について意見交換をすることで、知識や理解を深められる機会になった。児童生徒には、差別・偏見ゼロを目指して、自分の好きなところを掲示板に貼り、互いに認め合う活動をした。今後も人権に関する意識を高め、広めていくことが課題である。
②	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心できる形の儀式を実施する。 校舎移転に向けて、新校舎での儀式の計画案を検討をする。 	感染状況に応じて儀式の計画を柔軟に練り、児童生徒にとって安心安全な儀式を実施することができた。新校舎での儀式案について多角的に検討を行い、実施に向けての見通しをもつことができた。次年度は新校舎に合わせた儀式を計画立案し、実施となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な防災訓練に取り組む。 児童生徒、全職員が健康で安全に学校生活を送れるようにする。 寄宿舎と保護者、学校との情報交換を丁寧に行い課題を共有する。 	立地条件に伴った分散避難を想定して、トランシーバーの活用を試みた。建物の影響から電波の届く範囲など細かなことに配慮が必要だということが分かった。機器の活用の他にも、職員の誰もが互いに声を掛け合い、落ち着いて臨機応変な対応ができるようにすることが課題である。 緊急時対応訓練や事故報告等の職員への確実な周知を重ね、対策を随時検討することで安全に対する職員の意識が高まり、事故時の迅速な対応や危険の未然回避ができるようになってきた。医ケアに対する知識や意識は職員間で差があり、さらなる研修が必要である。
③	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に基づき、キャリア教育の視点から授業改善、学習評価に取り組む。 	学習指導要領の内容を基に、適切な目標や評価について周知した。個別の教育支援計画を基に指導計画を作成し、教員間で情報共有することで、キャリア教育の視点を取り入れた授業改善に取り組んだ。今後は小学部から高等部のつながりを大切にして授業改善に取り組んでいきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動において、個に応じた効果的な情報機器や支援機器の活用ができるようにする。 	ICT支援員や職員による情報機器のメンテナンスを定期的実施し、児童生徒用タブレットの利活用環境の整備に努めた。校内研修において、情報機器や支援機器の個に応じた活用について事例研究を行い、実践の共有を図った。
④	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する情報を家庭と学校が共有し、進路指導の充実を図る。 	新設された福祉事業所に訪問をし、情報を収集した。進路だよりを使い新しい施設の紹介や学校での進路指導に関する取り組みを保護者に伝えた。職員にも情報の共有をし、進路指導を進めることができた。今後も進路に関する情報を、保護者と職員とで共有できるようにしていきたい。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の調整や校外研修の紹介を行い、職員の専門性の向上に努める。 	全体、任意研修ともに各分掌の協力によって年間計画のとおり進めることができた。研修会の案内やオンラインでの研究発表や研究大会を紹介し、参加を呼びかけた。勤務時間の関係で参加することが難しい職員にも研修の内容が分かるように資料や動画を保存して周知に努めていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外の研修の機会を通して肢体不自由教育における専門性の向上に努める。 	日々の教育活動における疑問や不安に対し、専門性を有する校内教員や外部専門家から指導をしていただいた。一部研究発表会等の申し込み後、視聴URLを公開することや配付された資料を掲示して職員間で共有できるようにした。今後もグループウェア等を活用して研修の周知をしていきたい。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化をさらに進め、教材研究等の時間を十分に確保する。 	移転業務が追加された1年であったが、時間意識を高めて効率的な業務を啓発した結果、概ね目標の時間までに退校することができた。会議の効率化には十分取り組めず、今後の課題を提議するにとどまった。次年度は課題提議を生かして教材研究等の更なる時間確保に取り組む。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	○人権尊重 ○安心安全な学校 ○授業内容の充実	
総合評価	概ね目標を達成することができた。令和6年度の学校移転後も、人権を尊重し、安全安心な環境の中で授業内容を充実させ、児童生徒が生き生きと学べる学校の実現に向けて尽力したい。	